

今年度もあと5ヶ月となりました。2学期は、小学校では運動会や音楽会、中学校では文化祭など、子どもたちが学習の成果を発揮する場面が多く見られ、それぞれの行事を通して子どもたちは成長し、学級の団結力も強まったことでしょう。大きな行事もひと段落した今、子どもたちとじっくり関わらうチャンス。子どもの取組のよさを見つけ、成長の姿を認める声がけをたくさんしたいものです。



<小学校>

みんなのエネルギーを伝えよう！

運動会や音楽会で味わった団結力の心地よさと達成感を、日々の学級活動にも生かしましょう。

「エネルギーを伝えよう」を、学級活動の最初に、ちょっと加えてみてはどうでしょうか？



不思議と2回目はタイムがよくなります。「この中間でよかった」との肯定感で、活動に入れます。

「エネルギーを伝えよう」の進め方

- クラスで一つの円になって、手をつなぎます。先生は計時します。
- ルールを説明します。「右手をぎゅつとにぎられたら、すぐに左手をぎゅつとにぎります。「ぎゅつ」のエネルギーが一周したときのタイムを計ります。できるだけ早く伝えてね。」
- 握り始める子を決め、スタート！
- 1回やったら、2回目は目標を決めて、「どうしたら速くなるか、一人一人考えて」と言ってから挑戦！

学級づくりをキャリア教育の視点から見ると

学級に問題が生じたとき、どうしていますか？

給食の準備が協力的でなくなってきたな。



教室に紙くずが落ちたままになっているなあ。

学級に問題が生じたとき、「困ったことが起きたな」と、落ち込むことはありませんか。「ピンチはチャンス」です。学級に生じた問題も、自立への資質・能力を養う重要な場面となるのです。

問題を困ったこととして、教師が「～しなさい」と安易に解決の方向を押しつけるのではなく、「どう解決したいのか」を子どもたちに問い、一人一人の思いやアイデアを学級会に位置付けましょう。子どもが学級づくりに参画し、学級における自分の存在を自覚し、自分らしさを発揮しながら、学級という「身近な社会」を形成する経験を積むことにつながります。

<中学校>

学級づくりをキャリア教育の視点から見ると

生徒の成長につながる保護者懇談会

懇談会は、保護者と学級担任がじっくりと話せる貴重な時間。信頼関係を築き、生徒の成長につなげましょう。

【信頼関係を築く】

- 生徒のがんばり、何気ない姿の中にあるよさをエピソードで語りましょう。
- 学習や生活の様子が分かる資料を用意し、取組のよさや課題を明確にして改善の方向を話し合しましょう。
- 生徒や保護者の願いや悩みをしっかり受け止め、解決に向けて話し合しましょう。



【学年に応じた話題（例）】

- <1年生> 学習方法や生活リズムについて
- <2年生> 生徒会や部活動での引き継ぎにあたって
- <3年生> 個に応じた進路相談（生徒自身が将来を見据え目的を明確にできるように）

※生徒や保護者が3学期のめあてや見通しをもって前向きに取り組める懇談にしたいものです。

職場体験学習を生き方につなげる工夫

職場体験学習を振り返る際、今の学校生活や自分自身とつながって振り返る機会をもちましょう。

職場の方は

「お客さんに接するときは、ずっと笑顔だった。」
「目立たない場所も丁寧に掃除をしていた。」
「しめきりや時間を必ず守っていた。」

⇒「今、私たちが言われていることと同じだ。これらは、社会に出ても大切なことなんだな。」



職場体験学習をイベントで終わらせるのではなく、生徒が自分自身を見つめるチャンスにしてみませんか。

そこで、2年生は、職場体験学習の振り返りを生徒会や部活動の引継ぎと結び付け「どんな3年生になりたいか」を具体的に考える機会をもつとよいでしょう。